

保育者養成における実習指導への対話的アプローチの導入に関する基礎研究

音山 若穂¹⁾・利根川 智子²⁾・井上 孝之³⁾・上村 裕樹⁴⁾
三浦 主博⁵⁾・河合 規仁⁶⁾・安藤 節子⁷⁾・和田 明人⁸⁾

1) 群馬大学大学院教育学研究科教職リーダー専攻 2) 会津大学短期大学部 3) 岩手県立大学
4) 八戸短期大学 5) 東北生活文化大学短期大学部 6) 東北文教大学 7) 聖園学園短期大学 8) 東北福祉大学

A basic study on introduction of guidance for practical training in nursery teacher education through a dialogue approach

Wakaho OTOYAMA, Tomoko TONEGAWA, Takayuki INOUE, Hiroki UEMURA,
Kimihiro MIURA, Norihito KAWAI, Setsuko ANDO and Akihito WADA

1) Program for Leadership in Education, Graduate School of Education, Gunma University,
2) Junior College of Aizu, 3) Iwate Prefectural University, 4) Hachinohe Junior College,
5) Tohoku Seikatsu Bunka Junior College, 6) Tohoku Bunkyo College,
7) MisonoGakuen Junior College, 8) Tohoku Fukushi University

キーワード：実習指導、対話的アプローチ、ワールド・カフェ

Keywords : practical training, dialogue approach, world café

(2011年10月31日受理)

問題

教員養成や保育者養成においては、しばしば実習が課程全体の学びの総仕上げとしての意味を持つと言われる。保育士養成課程の教育課程においても保育実習は原則として最終学年に担当され、「保育原理」や「教育原理」などの基礎科目は前年度に習得していることが多く、「基礎技能」や「保育内容」の授業も保育実習前に終わらせるよう組み込まれているところが多い¹⁾。

この理由の一つには、実習の前提となる最低限の知識や技能を修得させる必要があることが挙げられるが、いま一つの理由として、自らの体験を振り返りながらその都度自らの知識や技能を検証し、修正し、発展させていくことができる基本的な態度や能力を、実

習の機会をとらえて育成したいというねらいもあることが挙げられるであろう。そして卒後は保育者として、実践の検証や改善を率先して自らの力で行うとともに、何らかの問題に直面しても、その場面や状況に応じた解決策を見いだしていく力を持つ人材を養成すること、最終的には、教職者や保育者の専門職像の一つとしてしばしば挙げられる「反省的实践家」²⁾へと発展する基本的な資質を醸成したいという意図が含まれているものと考えられるのである。

このように実習指導を捉え直してみると、実習成果に影響を及ぼすのは実習前の教育課程や実習中の経験のみならず、事後指導が果たす役割も大きい。この際にポイントとなるのは、自らの「気づき」であろう。

これまでにも、事後指導において自らの「気づき」を主体とした振り返りを促す取り組みはいくつか報告

されている。保育実習との関連では、ひとつには実習記録に関する取り組みが挙げられる。例えば、幸ら³⁾は、実習記録に着目し「反省的実践能力」として重要な学生の「学び」や「気づき」をいかに引き出せる記録としておくかについての調査研究を行っており、実習園担当者は実習生の「内的体験」の記述を実践での学びとして重視していることを明らかにしている。他にも実習個人カルテを作成したり⁴⁾、実習のエピソード記録⁵⁾を作成させたり、エピソードに省察を含めた記述⁶⁾をさせたりするなど、実習の振り返りを効果的に行うための工夫が試みられている。

いまひとつには、学生同士の話し合いや学び合いに関する取り組みであり、グループディスカッションやグループ別課題研究を取り入れたもの⁷⁾や、2年生と1年生との合同の学び合いの機会を設定した例⁸⁾など挙げられる。

こうした中で、和田ら⁹⁾は近年、組織管理や人材開発などの分野で注目されているグループ対話の諸技法に着目し、これを保育現場や保育士養成校への学びの適用を提案している。そして、この技法の一つであるワールド・カフェ¹⁰⁾については、保育実習事後指導¹¹⁾や、現任保育者研修会¹²⁾、FD研修会¹³⁾、養成校教員と保育者との合同研修会¹⁴⁾、¹⁵⁾、養成校における授業等¹⁶⁾において実践を重ねている。

1. 参加者全員による対話的アプローチ

本研究で取り上げる対話的アプローチは、ホールシステム・アプローチ¹⁷⁾、あるいはtransformational collaboration approach¹⁸⁾などと呼ばれ、ワールド・カフェの他、オープン・スペース¹⁹⁾、AI (Appreciative Inquiry)²⁰⁾、²¹⁾、フューチャー・サーチ²²⁾などの技法が知られている。これらは、もともと組織変革のアプローチとして発展してきたものである。組織や個人の利点や長所、魅力、希望や夢といったポジティブで前向きな可能性に焦点を当て、最善な形で引き出し、実現するにはどうしたらよいかをメンバー全員で追及するというのが、このアプローチの基本的な考え方である。ここではこうしたアプローチをポジティブ・アプローチと呼ぶことにする。

この対極に、欠点を指摘するアプローチ (deficit based approach) がある。欠陥をどう克服し、遂行するかに焦点を当てるといふ、問題解決においてありが

ちなアプローチと言える。しかしこうした欠点を指摘するアプローチは、ポジティブな変化ほど効果的ではなく、獲得される能力も計画の遂行に限定されてしまい、ポジティブな変革を継続する能力までは獲得されないという¹⁸⁾、²⁰⁾。実習の振り返りに当てはめると、失敗したことや、上手に出来なかった点に焦点を当てるといふ指導は、「この場面で上手に振る舞うためにはどうしたらよいか」という、きわめて限定的な省察を与えるに過ぎず、よりよい実践へ発展させようとする態度も、自ら考え、気づこうとする態度も育たないおそれがある。そこでポジティブな変化を期待するという組織変化の技法を実習指導の学びにも援用し、自らの「気づき」を主体とした振り返りを積極的に引き出し育てる試みが期待されるのである。

ワールド・カフェなどの手法はいずれも、組織や個人のポジティブな側面に焦点を当てると同時に、参加者全員での自由な対話を中心としていること、参加者の主体性と自主性が尊重されていること、そして結果としてポジティブな変化が期待されているという特徴は共通している。なかでも、特に実習指導において活用が期待されるのはワールド・カフェであろう。近年では、医療・福祉²³⁾~²⁶⁾、教育²⁷⁾~³⁰⁾、行政³¹⁾、消費者行動³²⁾、その他催事³³⁾、³⁴⁾など多くの分野で実践が報告されている。そしていずれの報告においても、その成果は満足できるものとして好意的に受け止められている。

ワールド・カフェが実習指導に適していると考えられる点には、次の2つが挙げられるであろう。

まず第1に、比較的短時間で実行できるという点である。他の手法が少なくとも1日間をかける必要があると言われてのに対して、ワールド・カフェは2時間程度あれば実行可能である。

第2は、自由でオープンな雰囲気のもとで少人数の対話を繰り返すという独特の形式から、個人の体験や反省、漠然とした感想であっても表現しやすく、また、他者の言葉を自分の体験や考えに重ね合わせて理解したり、新たな発想に結びつきやすいという特徴がある。すなわち、個人の振り返りにおいても有用な手法であると期待されるのである。もともとポジティブ・アプローチは組織変革のための新しいアプローチとして発展してきたものであり、その期待するところは第1に組織全体の変化である。しかしながらワールド・カフェ

は、組織にポジティブな効果を及ぼす可能性があると同時に、参加者1人ひとりの省察へと落とし込むことができるという点で、個人に対してもポジティブな効果を及ぼす可能性が期待されるのである。

しかしながら、組織への効果、あるいは個人への効果のいずれにおいても、ワールド・カフェの実践上の効果を検証した報告はきわめて少ない。現在までに、多少なりとも効果が記述されている報告としては、参加者の感想の一部³³⁾ や事後アンケートにおける満足度³⁴⁾ が紹介されているもの、対話の方向性や傾向がある程度具体的に報告されているもの^{25), 28), 31)}、対話によって挙げられた内容の分類を行っているもの²³⁾が挙げられる。しかし、いずれも対話の効果を実証的に分析したものとは言えず、ワールド・カフェが組織や個人に対してどのような影響を及ぼしているのかについての心理教育的な知見については、まだまだ不足しているのが現状である。

2. ワールド・カフェによる指導実践例

ワールド・カフェを実習や授業などの指導の一環として取り入れる場合、そのポジティブな効果について期待できる一方で、どこまでワールド・カフェの手法が授業内で再現できるのか不安が残る側面もある。というのは、ワールド・カフェが持つ対話の促進効果は、その独特のセッティングやファシリテーションの力に

よるところが大きい^{10), 17)}。授業での実施という、時間的、空間的に強い制約があるなかで、どこまでカフェ的な雰囲気を実現することができるのか、どこまで効果的な対話が実現され学習成果が得られるのかについて、効果検証はもとより現時点ではまだその手法さえも確立しているとは言えない。そこでまず、授業や実習指導における実践例を検討し、実際にワールド・カフェがどのような形式で進められているのか、その実態を明らかにすることとした。

表1は、東北地区7大学においてH21～H23年にワールド・カフェを導入した授業・実習指導を行った調査¹⁶⁾の中から、10例を抽出したものである。講義・演習科目も含めて実施されており、参加学生数にも幅があることが示されている。開始から終了までのセッション時間は65分～185分であり、1コマ以内で実施している例もみられる。事前準備には10～60分、後片付けに10～25分を要しており、模造紙、水性マジック、プロジェクタは全ての例で用いられている。話者の明示に使用するトーキング・オブジェクトも使われている。雰囲気を演出するための飲食物、卓上花、BGMは、使われる例と一切使わない例とに分かれた。

テーマについては、カフェ・テーマ、ラウンド・テーマともに、さまざまな工夫がみられる(表2)。実習事後指導においては「①実習であなたはどのようなことを学びましたか?」「②あなたがさらに成長するため

表1 ワールド・カフェを授業・実習指導に適用した例の実施概要

授業科目名	参加学生数(人)	所要時間			準備物			概算費用
		セッション(分)	準備	片付け	PC、プロジェクタ	模造紙、水性マジック	その他準備物	
1 保育実習事前事後指導	145	80×3	前日30分 当日10分	10分 学生 全員で行う	○	○	ポストイット(2色) BGM、お菓子、飲み物等は一切なし	1,000円(模造紙)
2 小児体育	20	65	10分	10分	○	○	トーキングオブジェクト、チベタンベル菓子	2,000円(菓子)
3 新入生研修	55	140	60分	10分	○	○	オレンジ(トーキングオブジェクト)、お菓子、飲料、紙コップ、お菓子入れのガラス皿、ウェットティッシュ、紙ナプキン、CD(ジャズアレンジ文部省唱歌)、色画用紙、ネームホルダー、ポストイット(2色)	56,000円
4 保育内容(言葉Ⅱ)	45	150	前日60分、 当日30分 (教員2名で 準備)	15分 学生 全員で行う	○	○	パワーストーン(トーキングオブジェクト)、ミニ花束、ポストイット(3色)、CDラジカセ、お菓子・飲み物は学生が持参	8,000円(パワーストーン、花束、模造紙等)
5 保育内容(言葉Ⅰ)(表現Ⅰ)合同	66	150	前日60分、 当日30分 (教員2名で 準備)	15分 学生 全員で行う	○	○	パワーストーン(トーキングオブジェクト)、ミニ花束、ポストイット(3色)、CDラジカセ、お菓子・飲み物は学生が持参	8,000円(パワーストーン、花束、模造紙等)
6 保育実習学内指導	82	185	40分	25分	○	○	ストーン(トーキングオブジェクト)、花(小鉢)、イーゼル(ポップ用)、ラジカセ、飲食物(菓子、飲料、紙皿、ペーパー)、ベル	30,000円
7 発達心理学Ⅱ	84	150	前日30分、 当日10分	10分	○	○	チロルチョコ(トーキングオブジェクト) 花束無し、BGM無し、お菓子・飲み物は学生が持参	1,000円(模造紙等)
8 障害児保育	108	80	30分	10分	○	○	チロルチョコ(トーキングオブジェクト) 花束無し、BGM無し、お菓子・飲み物は学生が持参	1,000円(模造紙等)
9 保育実習(事前事後指導)	112	150	30分	10分	○	○	チロルチョコ(トーキングオブジェクト) 花束無し、BGM無し、お菓子・飲み物は学生が持参	1,000円(模造紙等)
10 保育実習Ⅰb	33	150	30分	10分	○	○	ポストイット、花と花瓶、飲み物とお菓子、紙皿と紙コップ、CD(クラシック系)	13,000円(模造紙、飲み物、花等)

表2 ワールド・カフェを授業・実習指導に適用した例の実施概要(テーマと振り返り)

科目名	カフェ・テーマ (授業等のテーマ)	ラウンド・テーマ (テーブルトークのテーマ)	ハーベスティング(振り返り)
1 保育実習の事前事後指導	保育実習の振り返り一みんなで未来を創ろう	①保育所実習で、とても勉強になったことはどんなことでしょうか？ ②さらに成長するために、これからの課題はなんですか？ ③これからの課題に、いつ？どのように？取り組んだら、素敵な未来がやってくるでしょうか？	今日の感想(青色ポスト・イット) ・気づいたこと、見だしたこと(黄色表) ・最も印象に残ったこと(黄色裏)
2 小児体育	「わくわく！小児体育」前期の学習の振り返り	①小児体育の授業で一番ワクワクしたのはどんなことでしたか？ ②そのワクワクに共通するポイントは何でしょうか？ ③今後、保育者をめざす上で心がけたいことは何ですか？	・前期の活動を振り返って(表) ・ワールドカフェを体験した感想
3 新入生研修	1. ワールドカフェの体験を通して、理想の先生像について考える 2. 自分のこれからの4年間の課題をみつける 3. 参加者同士のつながりをつくる	①あなたの心に残っている魅力的な先生を皆さんに紹介してください。 ②魅力的な先生に共通するもの(ポイント)はどんなことでしょうか？ ③魅力的な先生に近づくために、大学で何をすればいいでしょうか？	・今年1年で取り組みたいこと ・ワールドカフェを体験した感想
4 保育内容(言葉Ⅱ)	充実した短大生活を送るために (目的) ①学生同士の人間関係を深める ②残り半年の学生生活をどう過ごすかの目標を自分自身で考える	①これまでの短大生活(授業、行事、サークル、実習)の中で、楽しかったことやうれしかったことはありますか？またそれはどんなことでしたか？ ②それらに共通するもの(ポイント)はどんなことでしょうか？ ③残りの学生生活を充実したものにするために何をしたいでしょうか？	・今日の感想(黄色) ・短大生活が充実するための最大のポイント(ピンク) ・後期に行いたいことはじめの一步(青)
5 保育内容(言葉Ⅰ) (表現Ⅰ)合同	充実した短大生活を送るために (目的) ①学生同士の人間関係を深める ②1年間を振り返り、残り1年間の学生生活をどう過ごすかの目標を自分自身で考える	①これまでの短大生活(授業、行事、サークル、実習)の中で、楽しかったことやうれしかったことはありますか？またそれはどんなことでしたか？ ②それらに共通するもの(ポイント)はどんなことでしょうか？ ③これからの学生生活を充実したものにするために何をしたいでしょうか？	・今日の感想(黄色) ・短大生活が充実するための最大のポイント(ピンク) ・これから行きたいことはじめの一步(青)
6 保育実習内指導	実習の振り返りを目的とした事後指導及びモチベーションの向上を目指した事前指導	①第1期保育所実習で成功した体験を皆さんに紹介しましょう ②成功した体験に共通するもの(ポイント)はどんなことでしょうか？ ③充実した実習をするために大切なことは何ですか？	・感想 ・第2期保育所実習を迎えるにあたり、これから実習に向けてほしいと思うこと
7 発達心理学Ⅱ	これまでの学習を振り返って「子ども」が「大人」になるとき	①あなたが出会った、「子ども」が「大人」になったエピソードを教えてください。 ②「子ども」が「大人」になった瞬間に共通するポイントは何でしょうか？ ③「子ども」が「大人」になるところに対して、保育者を目指すうえで心がけたいことは何ですか？	・感想、印象に残ったこと ・これから学ぶ必要があること
8 障害児保育	気になる園児を気にする いくつかの園児にどのようにならなるときに気になるものなのか	①あなたが(実習で)経験した「気になる子」のエピソードを教えてください。 ②「気になる子」と、園におけるその子への対応について、いまの対話に共通するポイントは何かありますか？ ③「気になる子」の支援に向けて、あなたが心がけたいことは何ですか？	・感想、印象に残ったこと ・これから学ぶ必要があること
9 保育実習(事前事後指導)	実習の振り返り 1年前の私のメッセージ	①あなたが実習で出会った「勉強になったこと」は何ですか？ ②さらに成長するために、これからの課題はなんですか？ ③1年前のあなたへ手紙を書いて、どのようメッセージを送りたいですか？	・1年前の私の手紙 ・感想、印象に残ったこと
10 保育実習Ⅰb	実習を終えて思うこと・感じたこと・考えたこと	①同席者に保育実習で発見したイメージと違う保育士の姿・イメージ通りだった保育士の姿を紹介しよう ②子どもについての感じ方・考え方がどのように変化してきたかを話し合ってみよう、人の意見と自分の意見の同じところや違いを探そう ③実習の振り返りをすすめる時に、どんなふうにするか実習での体験により深みのある意味付けをしていけるだろうか	・実習で印象に残った保育士の姿 ・実習で印象に残った子どもの姿 ・カフェ後の感想

に、これからの課題はどんなことですか?」「③あなたのこれからの課題に向かって、これから何をしたいと思いますか?」など、実習のリフレクションを今後の課題へ向けて発展的に考えさせる問いかけが特徴的であった。また、授業においては「①授業で一番面白かったのはどんなことでしたか?」「②その面白さに共通するポイントは何でしょう?」「③あなたは保育者を目指すうえで、どんなことを心がけたいですか?」といった、学修の目的やねらいを見つめさせ、今後の学びへと発展させる問いかけがみられた。

以上のように、制約の多い授業等の場面においてもワールド・カフェが実践されていることが示された。工夫次第では限られた授業時間の中でも実施できると思われ、実習指導のさまざまな局面においてワールド・カフェの導入の可能性が示唆されていると言えるであろう。

3. ワールド・カフェが参加者に及ぼす変化

ワールド・カフェが参加者に及ぼす効果について、筆者らはこれまでハーベスティング(振り返り)¹⁵⁾やテーブル・クロス(模造紙)¹⁴⁾の内容分析を行ってきたが、事前・事後比較の検討はまだ行っていない。そこで本研究では、研究の基礎的段階として、実習事後指導の一環として行った授業を対象に、実施前後において参加者にどのような変化が生じたかを探索的に検討することとした。

方法

- 1) 対象 A短大保育実習履修者106名。
- 2) 時期 保育所実習終了約1週間後に第1回(t1)の測定を行い、その翌週の事後指導授業時にワールド・カフェ(以下、カフェと略)の実践を行った。第2回(t2)の測定はその実施終了直後に行った。
- 3) 場所 可動式の机と椅子を有する講義室。
- 4) 指標 (1) 保育者効力感 三木ら³⁵⁾による15項目。三木らは最終的に10項目の改訂保育者効力感尺度を作成しているが、本研究では元の15項目を全て用いた。現在の自分に当てはめて「5:非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそうは思わない」「1:ほとんどそうは思わない」までの5段階自己評定を求めた。

(2) 保育者適性感 「私は保育者に向いていると思う」という1項目について、現在の自分に当てはめて「5:非常にそう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそうは思わない」「1:ほとんどそうは思わない」までの5段階自己評定を求めた。

(3) 感情状態 新名³⁶⁾による心理的ストレス尺度のうち、情動反応領域の3下位尺度、「抑うつ気分」、「不安」、「怒り」の各6項目計18項目、ならびに古屋ら³⁷⁾が用いているポジティブな情動を測定する5項目を用いた。現在の自分の状態について「5:あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまり当てはまらない」「1:当てはまらない」の5段階自己評定を求めた。

5) 手続き 机を2つ合わせてテーブルに見立て、1テーブルあたり3~4人の座席を配置した。テーブル上には模造紙が敷かれ、水性ペン、トークン・オブジェクト、ハーベスティング用のポスト・イットが置かれた。教室内には軽音楽が流された。飲食物や卓上花は用いなかった。教員がカフェ・ホスト(進行役)となった。参加者(履修者)は抽選で決定した席順で着席した。

カフェの目的やカフェ・テーマ、進行順序、カフェ・エチケットの解説後、第1ラウンドの対話を開始した。ラウンド・テーマは「あなたが実習で出会った“学び”には、どんなとき、どんなことがありましたか?」であった。開始後は、特に教員は各テーブルに介入せず、各テーブルの会話の流れに任せた。開始から約30分後、テーブルごとにテーブル・ホストを1名選び、その者以外は他のテーブルに移動するという席替えを行った。続いて第1ラウンドの対話内容をお互いに紹介する時間を数分持った後、第2ラウンドの対話を開始した。ラウンド・テーマは「それらに共通するポイントは何でしょう?」であった。約30分経過後、10分の休憩時間をはさみ、第1ラウンドの座席に戻って第3ラウンドの対話に進んだ。ラウンド・テーマは「さらに成長するために、これからの課題は何でしょう?」であった。約30分経過後、対話セッションを終えた。

続いて、全てのテーブルの模造紙の記録を閲覧するギャラリー・ウォークセッションを15分程度行った。最後に、あらかじめ配布されていたポスト・イット紙に「1年前の自分にメッセージを送るとしたら、どんな言葉を送りますか?」というテーマで記述を求めた。

これがハーベスティング（振り返り）であり、講義室側面の壁に貼り付け、全員で確認し合って終了した。準備や後片付けを含め、全体で3時間程度の時間を要した。

結 果

1. 保育者効力感の妥当性の確認と α 係数

保育者効力感15項目について因子分析を行った。事前・事後のデータを込みにしたうえで、主因子法、プロマックス回転を行った結果を表3に示す。因子Iは三木らの改訂保育者効力感尺度10項目によって構成

されており、因子II・IIIには改訂版から除外された、個別対応に関する項目やネガティブな設問項目によって構成されていた。因子Iの10項目すなわち改訂版尺度についてCronbach α を求めると $\alpha = .790$ であり、十分な内的一貫性を有していることが示された。また、因子II・IIIをも含めた15項目全体についての α は $\alpha = .764$ であった。

2. カフェ実施前後における保育者効力感と

保育者適性感の比較

カフェ実施前と実施後のそれぞれについて、項目の平均とSD、事前・事後の差分平均DとSEとを表4に示

表3 保育者効力感の因子分析結果

	調整後の因子パターン行列			
	I	II	III	共通性
Q12 集団への配慮もできる	.627			.388
Q1 わかりやすく指導	.612			.317
Q4 保育プログラムに対応	.554			.280
Q8 どの年齢でもうまくやれる	.551			.364
Q10 保護者に信頼を得る	.534			.239
Q2 能力に応じた課題	.523			.237
Q15 保育環境を整えられる	.488			.247
Q13 指導や援助を行える	.483			.445
Q11 不安定な子に対応できる	.477			.234
Q9 いじめに対処できる	.372			.288
Q5 1人ひとりに働きかけは無理		.713		.505
Q3 登園拒否に対応できない		.585		.300
Q7 やる気を起こすのは難しい	.268	.287		.226
Q6 1人ひとりの性格を理解		.277		.113
Q14 生活習慣の指導は難しい			.628	.434
因子間相関	I	.427	-.136	
	II		-.007	

表4 ワールド・カフェ実施前後における保育者効力感と保育者適性感の比較

項目	t1(カフェ実施前)		t2(カフェ実施後)		D	SE	t
	平均	SD	平均	SD			
保育者効力感(15項目合計点)	50.14	5.209	51.28	4.465	-1.142	.349	-3.274 **
改訂版保育者効力感(10項目合計点)	32.74	3.673	33.73	3.419	-.991	.292	-3.396 **
Q1 わかりやすく指導	3.14	.654	3.21	.547	-.066	.062	-1.068 ns
Q2 能力に応じた課題	3.09	.640	3.21	.613	-.113	.060	-1.873 ns
Q4 保育プログラムに対応	3.05	.735	3.28	.700	-.236	.07	-3.352 **
Q8 どの年齢でもうまくやれる	3.27	.655	3.41	.644	-.132	.072	-1.827 ns
Q9 いじめに対処できる	3.19	.603	3.25	.603	-.066	.065	-1.021 ns
Q10 保護者に信頼を得る	3.21	.643	3.34	.550	-.132	.064	-2.051 *
Q11 不安定な子に対応できる	3.25	.599	3.34	.631	-.094	.062	-1.517 ns
Q12 集団への配慮もできる	3.41	.582	3.49	.556	-.085	.062	-1.378 ns
Q13 指導や援助を行える	3.45	.619	3.50	.606	-.047	.065	-.728 ns
Q15 保育環境を整えられる	3.68	.489	3.70	.461	-.019	.052	-.364 ns
Q3 登園拒否に対応できない	2.44	.806	2.44	.806	.000	.076	.000 ns
Q5 1人ひとりに働きかけは無理	2.70	.706	2.60	.726	.094	.082	1.149 ns
Q6 1人ひとりの性格を理解	3.58	.583	3.78	.414	-.198	.058	-3.444 **
Q7 やる気を起こすのは難しい	2.42	.742	2.62	.856	-.208	.082	-2.521 *
Q14 生活習慣の指導は難しい	2.75	.766	2.31	.773	.443	.074	6.031 **
保育者適性感 保育の仕事に向いている	3.51	.590	3.79	.452	-.283	.053	-5.319 **

** : $p < .01$, * : $p < .05$

表5 ワールド・カフェ実施前後における感情状態の比較

項目	t1(カフェ実施前)		t2(カフェ実施後)		D	SE	t	
	平均	SD	平均	SD				
抑うつ気分	8.02	5.050	7.98	4.303	.038	.162	.232	ns
怒り	8.16	5.064	8.10	4.588	.057	.124	.456	ns
不安	7.46	4.408	6.12	3.288	1.340	.247	5.421	**
高揚感	8.24	4.599	10.36	4.713	-2.123	.289	-7.338	**

** : p<.01, * : p<.05

表6 カフェ実施前の保育者効力感の高低2群による感情状態の比較

		効力感低群		効力感高群		t
		平均	SD	平均	SD	
カフェ実施前 (t1)	抑うつ気分	7.79	4.745	8.25	5.374	.460
	怒り	7.58	5.048	8.74	5.062	1.172
	不安	6.91	4.579	8.02	4.199	1.304
	高揚感	6.92	3.975	9.55	4.838	3.049 **
カフェ実施後 (t2)	抑うつ気分	7.92	4.354	8.04	4.292	.135
	怒り	7.55	4.635	8.66	4.515	1.253
	不安	5.92	3.485	6.32	3.099	.618
	高揚感	7.87	4.072	12.85	3.954	6.390 **

** : p<.01, * : p<.05

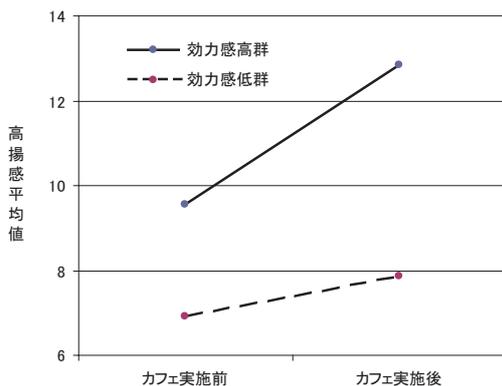


図1 カフェ実施前後における高揚感の高揚感の平均値

す。Paired-t検定を行った結果、改訂版尺度10項目合計点、および15項目合計点のいずれにおいても有意差が認められ、カフェ実施前よりも実施後の得点が高いことが示された。個別の項目でみると、「保育プログラムに対応」「保護者に信頼を得る」「1人ひとりの性格を理解」「やる気を起こすのは難しい」および「生活習慣の指導は難しい」において有意差が認められた。

また、保育者適性感、すなわち「保育の仕事に向いている」かにおいても有意差が認められ、カフェ実施前よりも実施後の得点が高いことが示された。

3. カフェ実施前後における感情状態の比較

カフェ実施前と実施後のそれぞれについて、項目の平均とSD、事前・事後の差分平均DとSEとを表5に示す。Paired-t検定を行った結果、不安と高揚感において有意差が認められ、不安については実施前よりも実施後の得点が低く、高揚感については実施前よりも実施後の得点が高いことが示された。

4. 保育者効力感の高低2群による感情状態の比較

カフェ実施前の保育者効力感(改訂版10項目)の平均を基準として高低2群に分け、それぞれ感情状態の平均とSDを求めた結果を表6に示す。その結果、高揚感についてのみ、カフェ実施前、実施後ともに平均に差が認められ、効力感の低群よりも高群のほうが高揚感が高いことが示された。そこで効力感(高、低)と繰り返し(実施前、実施後)のある2要因分散分析を行ったところ、効力感($F(1,104) = 23.99, p < .01$)、繰り返し($F(1,104) = 63.35, p < .01$)の主効果の他、交互作用($F(1,104) = 19.55, p < .01$)も有意であり、カフェの実施前後における高揚感の増加の程度は、効力感の低い群に比べて効力感の高い群のほうが大であることが示された(図1)。

考 察

1. カフェ実施前後における保育者効力感と

保育者適性感

本研究では、カフェの実施前後で保育者効力感と保育者適性感に変化が見られるか検討した。保育者効力感については尺度の内的一貫性を確認した上で尺度合計値の事前・事後比較を行ったところ、カフェ実施前よりも実施後の得点が高いことが示された。実施後に得点の上昇をみた個別の項目には「Q4：保育プログラムに対応」、「Q10：保護者に信頼を得る」「Q6：1人ひとりの性格を理解」「Q7：やる気を起こすのは難しい」が挙げられた。これらの項目はいずれもある程度の経験あって初めて自信が持てる内容であり、実習によって得た経験を参加者が相互に語り合い確認し合う対話を通して内面化し、効力感へと結びついたという可能性が考えられるであろう。一方、「Q14：生活習慣の指導は難しい」では得点が低下しているが、実習でのさまざまな経験を語り合うことで、指導の難しさを改めて認識した可能性が考えられる。また、Q6、Q7およびQ14は三木ら³⁵⁾の最終版では除外された項目であるが、このような「難しさ」を連想させる設問において有意差をみたことは、カフェでの自由な対話を通して、さまざまな角度からの自らの体験の省察が行われ、自らの課題についての捉え直しが行われた可能性がある。もちろんいずれの可能性も推測の域を出ないが、保育者適性感においても有意差が認められ、カフェ実施後ではより「保育の仕事に向いている」との回答が増加したことは、少なくともカフェが事後指導において何らかのポジティブな効果を持ち、参加者のポジティブな認知変容に影響を及ぼしている可能性が示されたと言えるであろう。

2. カフェ実施前後における感情状態

本研究では実施前後において不安と高揚感において変化が認められ、実施前から実施後にかけて、不安は低下し、高揚感は上昇する結果が示され、ポジティブな方向への感情の変化が認められた。一般にカフェの参加者に対する評判は良いことがほとんどであるが、今回の結果もそれに一致すると言えるであろう。自由でオープンな雰囲気のもとで、異なるメンバーと対話を繰り返すことが、参加者にはある種の心地の良さを

与えるのかも知れない。特にカフェ実施前に保育者効力感が高い群においては、高揚感の増大の程度が大きかった。すでに保育者としてある程度の自覚や自負のある参加者にとっては、お互いに経験した内容を語り合い、その内容を整理しながら今後の自らの課題や目標へと落とし込むという作業は、知的意欲を喚起し、カフェでの対話がより一層心地よいものと感じられたのかも知れない。すなわちカフェにおいては1人ひとりの「気づき」を促し、反省の実践へとつながる洞察が得られる可能性がある。これはグループ討議の形式を取りながらも、実習指導としては個別指導とも重なる要素をも含んでいると言えるかも知れない。

3. 全体的考察と今後の課題

以上のように、カフェの実施前後における比較を通して、カフェの実施後では保育者効力感が高まり、より強く「保育の仕事に向いている」と感じ、感情状態もポジティブな変化が示された。このことから、少なくともカフェを事後指導に導入した際、参加者に何らかのポジティブな影響を与えている可能性が示唆されていると言えるであろう。

ただし今回はあくまで一事例での前後比較であり、対照群を設けた実験的検討でもない。従って現時点ではその解釈はかなり限定的なものにとどまる。今後、複数の施設での同時調査や、対照群を設けた比較、さらに卒後の追跡的調査も含めたさらなる実証的検討を行うことによって、今回の成果がより明確なエビデンスとなるものと思われる。

今回は保育者効力感については、尺度合計の比較では有意差が認められたものの、下位項目についてみると有意差が認められたのは15項目中5項目にとどまっている。

この理由のひとつには指標の妥当性の問題があるだろう。カフェによるポジティブな変容を捉えるにはどのような尺度がふさわしいのか、現時点では必ずしも明らかではない。本研究で扱った保育者効力感などもあくまで一つの例であり、今後は他の指標も含めて実証的に検討する必要があるだろう。特に、カフェの効果を直接に評価できる指標、対話の内容や広がり程度の指標、対話によって得られた洞察の量的、質的な評価指標が求められると言えるだろう。

いまひとつには、事後指導におけるカフェの手法が

確立されていないため、今回の実践ではカフェが本来持つ対話の促進効果が十分に発揮されず、限定的な効果にとどまっていたという可能性も考えられる。

香取³⁸⁾は、カフェの課題について、いかに話し合いを深めていくかという点にあると指摘している。そのためには第一に、カフェの基本理念や、会話のスキルとしての「ダイアログ」の考え方が参加者に十分に理解されることが必要であり、カフェの実施前に参加者全員がダイアログの概念をあらかじめ理解している状態が望ましいという。今回は時間的制約もあり、カフェの実施前に十分に目的や内容の周知を図る時間を持つことが出来なかった。この点については、できれば日頃から、実習指導に限らず授業や演習を含めて、学生同士がダイアログに親しむ環境を創っていくことが望ましいと言えるであろう。

本研究で取り上げた対話的アプローチによる実習指導の取組みは、教育実習においても有用であるものと思われる。その際、具体的な教科指導の局面において導入する場合には、「カフェの課題」を明確にするために、例えば瀬川ら³⁹⁾が行っているように、実習授業のVTRを活用して事前にテーマを整理した上で、授業研究の後半の段階に対話的アプローチを導入するなどの工夫が考えられるであろう。この点については今後の研究が期待されるところである。

文 献

- 1) 全国保育士養成協議会専門委員会, 保育士養成システムのパラダイム転換Ⅱ ―養成課程のシーケンスの検討―, 保育士養成資料集第46号, Pp.37-51, 2007.
- 2) ショーン, D. 佐藤学・秋田喜代美(訳) 専門家の知恵―反省的実践家は行為しながら考える, ゆみ出版, 2001.
- 3) 幸順子・秋田房子・紀藤久美子, 反省的実践に有用な保育実習記録様式作成に関する研究 ―実習生と保育所への調査結果を通して―, 保育士養成研究, 26, Pp.67-76, 2008.
- 4) 山田秀江, 学びを深める保育実習事後指導のあり方についてⅡ―実習個人カルテ作成の試み―, 全国保育士養成協議会第49回研究大会発表論文集, Pp.208-209, 2010.
- 5) 木戸啓子, 保育実習生のエピソード記録からみる保育実習の学び, 全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集, Pp.118-119, 2011.
- 6) 山森泉・福井逸子, 保育所実習における記録のあり方 ―エピソード記録からエピソード記述へ―, 全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集, Pp.300-301, 2011.
- 7) 新開よしみ・柳瀬洋美, グループダイナミクスを活用した保育実習指導Ⅰ, 全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集, Pp.124-125, 2011.
- 8) 安部孝・原田智鶴, 保育実践力を培う実習指導の展開Ⅰ～「学び合い」の意味へ, 全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集, Pp.172-173, 2011.
- 9) 和田明人・井上孝之・上村裕樹, 対話による集合知の創生に関する研究 ―ホールシステム・アプローチの適用・試行―, 全国保育士養成協議会第49回研究大会発表論文集, Pp.194-195, 2010.
- 10) Brown, J., Isaacs, D., & World Café Community, The World Café : Shaping our futures through conversations that matter. Berrett-Koehler Publ. 2005. (香取一昭・川口大輔(訳) ワールド・カフェ ―カフェ的会話が未来を創る, ヒューマンバリュー, 2007)
- 11) 井上孝之・上村裕樹・和田明人・音山若穂・河合規仁・三浦主博, 保育者を目指す学生の意識向上に向けた取り組み～「ワールド・カフェ」を取り入れた研修より～, 八戸短期大学研究紀要, 33, Pp.55-63, 2010.
- 12) 井上孝之・上村裕樹・河合規仁・和田明人・音山若穂・安藤節子・三浦主博, 「ワールド・カフェ」による保育現場の学び支援 ―現任保育者研修への適用―, 全国保育士養成協議会第49回研究大会発表論文集, Pp.288-289, 2010.
- 13) 上村裕樹・井上孝之・三浦主博・和田明人・河合規仁・利根川智子, 「ワールド・カフェ」のFD研修会への試行 ―保育者養成校と保育現場の合同研修に向けた取り組み―, 全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集, Pp.70-71, 2011.
- 14) 音山若穂・上村裕樹・三浦主博・井上孝之・安藤節子・和田明人・河合規仁, ワールドカフェを用いた保育者と養成校教員の合同研修における学び支援 テーブルクロス(模造紙)のキーワード分析, 日本教育心理学会第53回総会発表論文集, Pp.405, 2011.
- 15) Uemura, H., Otoyama, W., Miura, K., Inoue, T., Ando, S., Wada, A., Kawai, N. & Tonegawa, T. Support of learning in combination training of nursery teacher and teacher of nursery teacher training school : Content analysis of harvesting in the World Café. The 12th PECERA's Annual Conferences, 2011.
- 16) 利根川智子・上村裕樹・三浦主博・井上孝之・河合規仁・和田明人, 授業・実習指導におけるワールド・カフェの実践と学びに関する基礎研究, 全国保育士養成協議会第50回研究大会発表論文集, Pp.340-341, 2011.
- 17) 香取一昭・大川恒, ホールシステム・アプローチ―1000人以上でもとことん話し合える方法, 日本経済新聞出版社, 2011.
- 18) Lewis, S. Positive Psychology at Work : How Positive Leadership and Appreciative Inquiry Create Inspiring Organizations. Wiley-Blackwell, 2010.
- 19) Owen, H., Open Space Technology : A User's Guide.

- Berrett-Koehler Publ. 1997. (ヒューマンバリュー (訳) オープン・スペース・テクノロジー ～5人から1000人が輪になって考えるファシリテーション～, ヒューマンバリュー, 2007)
- 20) Whitney, D & Trosten-Bloom, A., The Power of Appreciative Inquiry : A practical Guide to Positive Change. Berrett-Koehler Publ. 2002. (ヒューマンバリュー (訳) ポジティブ・チェンジ～主体性と組織力を高めるAI～, ヒューマンバリュー, 2006)
- 21) Watkins, J.M., Mohr, B. & Kelly, R Appreciative Inquiry : Change at the Speed of Imagination (2nded). Pfeiffer, Wiley, 2011.
- 22) Weisbord, M. R., & Janoff, S., Future Search : An Action Guide to Finding Common Ground in Organizations and Communities, Berrett-Koehler Publ. 2000. (香取一昭・ヒューマンバリュー (訳) フューチャーサーチ～利害を越えた対話から、みんなが望む未来を創り出すファシリテーション手法～, ヒューマンバリュー, 2009)
- 23) While, A., Murgatroyd, B., Ullman, R. & Forbes, A. Nurses', midwives' and health visitors' involvement in cross-boundary working within child health services. Child : Care, Health & Development, 32 (1), Pp.87-99, 2006.
- 24) McAndrew, S., Warne, T., Fallon, D. & Moran, P. Young, gifted, and caring : A project narrative of young carers, their mental health, and getting them involved in education, research and practice. International Journal of Mental Health Nursing, 21, Pp.12-19, 2012.
- 25) Fallon, D., Warne, T., McAndrew, S. & McLaughlin, H. An adult education : Learning and understanding what young service users and carers really, really want in terms of their mental well being. Nurse education today, 32 (2), Pp.128-132, 2012.
- 26) Dellasega, C. A. Bullying Among Nurses : Relational aggression in one form of workplace bullying. What can nurses do about it? American Journal of Nursing, 109 (1), Pp.52-58, 2009.
- 27) Thomas, C.M Teaching nursing students and newly registered nurses strategies to deal with violent behaviors in the professional practice environment. The Journal of Continuing Education in Nursing, 41 (7), Pp.299-308, 2010.
- 28) Churchman, D. & King, S. Academic practice in transition : hidden stories of academic identities. Teaching in Higher Education, 14 (5), Pp.507-516, 2009.
- 29) 浮穴正博 視聴覚教材「紡ぎ出す未来」を使った研修ーワールドカフェの手法ー ヒューマンライツ, 267, Pp.72-75, 2010.
- 30) 鶴岡弘美 「ワールドカフェ」はすべらないー楽しくまじめに「結婚差別」を学習ー ヒューマンライツ, 276, Pp.7-11, 2011.
- 31) Tan, S. & Brown, J. The World Café in Singapore : Creating a learning culture through dialogue. The Journal of Applied Behavioral Science, 41 (1), Pp.83-90, 2005.
- 32) Brennan, C. & Ritch, E. Capturing the voice of older consumers in relation to financial products and services. International Journal of Consumer Studies, 34, Ppp.212-218, 2010.
- 33) 長岡俊成 お寺でワールド・カフェは可能か?ー現代的「寄り合い」の実践, 曹洞宗総合研究センター学術大会紀要, 12, Pp.537-542, 2011.
- 34) 大前みどり 自由な対話を通じて参加者の意識をゆるやかに変容するーワールド・カフェ・ウィーク2009開催報告企業と人材, 43 (961), Pp.44-47, 2010.
- 35) 三木知子・桜井茂男 保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響. 教育心理学研究, 46 (2), Pp.203-211, 1998.
- 36) 新名理恵 ストレス反応の測定ー心理的検査. CLINICAL NEUROSCIENCE, 12 (5), Pp.54-57, 1994.
- 37) 古屋健・音山若穂 (8) ストレス. In : 雇用管理業務支援のための尺度・チェックリストの開発ーHRM (Human resource management) チェックリストー. 日本労働研究機構調査研究報告書, 124, Pp.102-203, 1999.
- 38) 香取一昭 (談)・石原野恵 (取材・文) “学習する組織をつくるワールド・カフェの対話” 人材教育, 23 (2), Pp.46-48, 2011.
- 39) 瀬川武美・福本昌之 反省的実践を促す教師教育プログラムの研究 : 教育実習における協働授業の省察 帝塚山学院大学研究論集, 41, Pp.61-82, 2006.

(おとやま わかほ・とねがわ ともこ・いのうえ たかゆき・うえむら ひろき・
みうら きみひろ・かわい のりひと・あんどろ せつこ・わだ あきひと)